



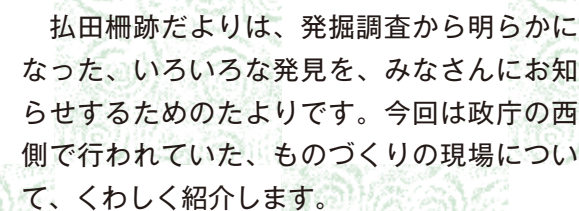
お米は、今も昔も私たちの生活に欠かすことが出来ません。この文書にも、生活や仕事に密着したやりとりが記録されていました。このような帳簿類は国が管理していました。不要となって放出された後、どのような経緯で払田柵にもたらされたのでしょうか。



- 大仙市弘田柵総合案内所(4月~11月) 〒014-0802 大仙市弘田字仲谷地95番地  
tel.0187-69-2397 (fax兼)  
(大仙市仙北支所) tel.0187-63-3003 fax.0187-63-3015



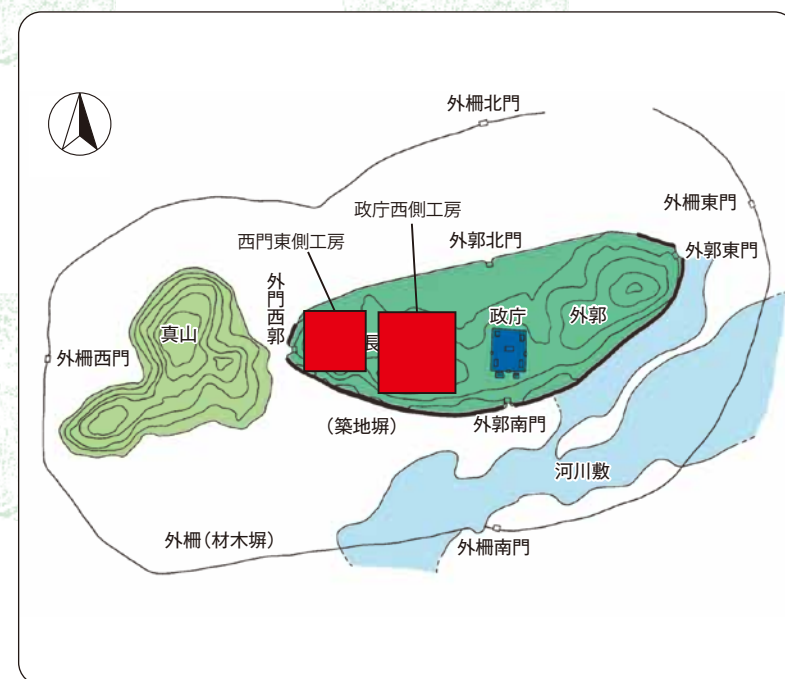
秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所



## ■ 政庁の西側は職人たちの仕事場

弘田柵跡は、9世紀初めにつくられた城柵遺跡です。城柵とは、東北地方を支配するために各地に置かれた役所です。遺跡の中央にある長森丘陵は東西に細長くのびる楕円形で、落花生のような形をしています。丘陵の東西がフタコブ山となって高く、中央は低くくぼんで平坦面がつくり出されています。この中央部に役所の中心施設である政庁がおかれ、東側の小高い丘の上には文書作成や租税の計算などの行政機能を担った地区があります。

西側の小高い丘には、役所で使う道具類をつくったり修理したりした鍛冶工房や漆を使う作業場がまとめられており、多くの職人が働いていました。



長森丘陵西側地区の工房群位置





## ■ 生産に関わる施設 西半部の鍛冶工房

長森西側の小高い丘の上にある平坦面は、西半部（外郭西門東側）と東半部（政庁西側）に分けられます。西半部と東半部は、時期によって少しずつ場所を変えながら、鍛冶工房域として使われていました。

外郭西門に近い北側の斜面では、9世紀中頃～後半代の鍛冶工房群が確認されました。また南側斜面の上位には9世紀中頃の竪穴建物跡と板塀跡が見つかりました。斜面中位では鍛冶炉を持つ掘立柱建物跡から金床石と工人が足を入れる穴がセットで確認され、金床石には鉄をたたいた時に飛び散る鉄片（鍛造剥片）が付着していました。

また、工房の近くには鍛冶炉を持たない竪穴や掘立柱建物跡が設けられており、これらは工人たちの仕事を監督していた建物と考えています。

鍛冶工房群の東側には、板塀を挟んで埴壇などの遺物を出土した竪穴建物跡が見つかり、銅の鑄造に関わる施設と考えられます。

9世紀後半～10世紀前半には、南側斜面に鍛冶工房が移動しました。



丘陵頂部～南側緩斜面部の遺構（東から）  
古代は外郭西門への道路として使用されますが、縄文の竪穴建物跡と中世の墳墓が重複していました。目前には真山が迫ります。



北側斜面中位整地面西側の鍛冶工房跡（北から）  
掘立柱建物跡を上屋とする鍛冶工房が並び、奥の工房からは鍛冶炉と金床石、足入れ穴がセットで確認されました。



北側斜面中位  
この付近には規模の小さな掘立柱建物跡が集中していました。



## ■ 東半部の鍛冶工房

政庁西側に隣接する少し高い部分では、北側斜面を中心に、9世紀後半～10世紀前半代の鍛冶工房群が密集して見つかりました。

特に、斜面の中程では東西60m、南北40mの2,400㎡の範囲に、約250基もの鍛冶工房が重複しながら操業していました。

斜面の上位には鍛冶炉を持たない竪穴建物跡や掘立柱建物跡があり、何らかの工房とその管理建物と考えられます。この付近の竪穴から、渤海産の可能性のある瓦質土器や仏鉢形土器などの特異な遺物が見つかり、この工房域に関係した祭祀遺構と考えられています。

また、北側斜面の下位は土取り穴群となっていて、鍛冶関連の施設構築に伴うものと考えられますが、外郭北門周辺の低地部への盛土整地等のために土を取った可能性もあります。

9世紀後半～10世紀前半には、南側斜面に鍛冶工房が移動しました。



北側斜面中位の鍛冶工房（北西から）  
同一箇所でも床面の嵩上げが繰り返され、工房跡が上下に重複してつくられています。



渤海産の可能性のある瓦質土器



溝跡から出土した土器群  
鍛冶に関連し、地鎮などに使われた祭祀遺物と思われます。